

安曇野市観光振興ビジョン

主要施策評価報告書

《 平成 25(2013)～令和 4(2022)年度 》

令和 5 年 2 月

安曇野市観光振興ビジョン有識者会議

目次

1. 安曇野市観光振興ビジョンの概要	P1
2. 目標値の達成状況	P3
3. 評価実施方法	P4
4. 施策評価内容について	P4
(1) 各施策の具体的取り組みに対する実施評価	P4
(2) 主要施策の現状における達成状況と実施評価総括	P16
(3) まとめ	P16
資料	P18

1. 安曇野市観光振興ビジョンの概要

【計画策定の目的】

本ビジョンは、第一次安曇野市総合計画で定めた分野別基本方針「豊かな産業のあるまちの形成」の実現に向けた、安曇野市の観光振興に関する個別計画として位置付け策定された。

その後、第二次安曇野市総合計画が策定され、基本目標「足腰の強い魅力ある産業を創造し、活力にあふれた賑わいのあるまちをつくります」の実現に向けた個別計画として位置付けられている。

【計画期間】

平成 25（2013）年度から令和 4（2022）年度までの 10 年間

【基本理念】

はじめよう、『安曇野暮らしツーリズム』 ～豊かな旅・豊かな生き方～

【基本方針】

本計画では、安曇野市らしい観光を展開していくための、土台となる安曇野らしい暮らし方・生き方について、「安曇野暮らし5箇条」を定め、観光を軸に「安曇野暮らし」を知り、広く伝え、磨きをかけ、さらに輝かせていく一連の活動を「安曇野暮らしツーリズム」と定義した。全ての産業の事業者、行政の連携・協働により、来訪者に安曇野暮らしを伝え、体験・応援していただくことを目指していくこととする。

(安曇野暮らし5箇条)

1. 自然に対する畏敬と感謝を忘れず、自然と共生した「安曇野暮らし」を実践します。
2. 地域の誇りである肥沃な大地での「農」と安全・安心な「食」を大切に、健康な「安曇野暮らし」を実践します。
3. 先人達が築いてきた「歴史・文化」を守り、この地を舞台に生まれた「芸術」の継承・活用を図り、文化の薫り高い「安曇野暮らし」を実践します。
4. 地域のつながりを実感し、安曇野に集う人々が響き合う、心豊かな「安曇野暮らし」を実践します。
5. 住む人と、訪れる人が協働して、うるおいのある「安曇野暮らし」を実践します。

【5つの基本戦略と施策体系】

「安曇野暮らしツーリズム」を実現していくため、5つの基本戦略とその土台として観光基盤整備に関する項目を定め、具体的な取組を進めていくこととした。

(5つの基本戦略と主要施策)

- 1 安曇野暮らしをまもる ～自然との共生～
 - 1-1 自然資源の保全
 - 1-2 自然資源の活用
 - 1-3 自然環境への配慮

- 2 安曇野暮らしをそだてる ～農のある暮らしの再生と食の活用～
 - 2-1 「農」や「里山」のある暮らしの維持・継承
 - 2-2 地産地消の推進

- 3 安曇野暮らしをつたえる ～歴史・文化、芸術の継承・活用～
 - 3-1 歴史・伝統の継承・活用
 - 3-2 芸術、文化の活用・連携
 - 3-3 地域産業の活用・連携

- 4 安曇野暮らしをつなげる ～コミュニティとの連携～
 - 4-1 コミュニティビジネスの支援
 - 4-2 安曇野暮らしツーリズムの普及・啓発
 - 4-3 移住希望者やリピーターとのネットワーク化の推進
 - 4-4 広域連携の推進

- 5 安曇野暮らしがうるおう ～観光関連産業の強化と観光波及効果の最大化～
 - 5-1 観光関連産業の強化
 - 5-2 農商工観連携の強化
 - 5-3 安定財源の確保

観光基盤整備

観光推進体制の構築

- ・観光推進組織の育成・強化
- ・観光関連産業の人材育成
- ・観光情報発信の強化
- ・観光統計の充実

観光基盤の充実・強化

- ・交通の改善
- ・観光拠点の整備
- ・ユニバーサルデザインの推進
- ・情報化の推進

2. 目標値の達成状況

本ビジョンでは、平成 25 年度を基準に平成 29 年度、令和 4 年度の目標値を設定したところであり、各目標値の達成状況等は以下のとおりとなっている。

なお、令和 2 年度にまん延した新型コロナウイルス感染症により、観光消費額と日帰り・宿泊滞在時間が減少した。令和 3 年度より観光消費額と日帰り・宿泊滞在時間は微増したが目標には至らなかった。「安曇野暮らし体験プログラム」への市主催ツアー及びお試し住宅利用者延べ人数も微減という結果となった。外国人延宿泊数は、国による外国人観光客の受入が再開されず大幅な落込みとなっている。一方、来訪者満足度、再来訪意向においては目標値を達成している。

以上のことから、来訪者満足度、再来訪意向の水準は現状を保ち、新たな安曇野ファンの獲得と観光客一人当たりの消費額を向上させることが今後の課題である。

※達成状況は、直近のデータ（令和 3 年度実績）を基に判断します。

- (1) 観光経済波及効果（平成 25 年度に推計される市内の観光総消費額を基準とし、平成 29 年度までに 12.3%増、令和 4 年度までに 26.1%増(244.9 億円)を目標とする) (単位：億円)

年度	H25 年度	H29 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	結果
観光消費額	194.2 (基準値)	122.0	119.7	66.9	72.5	未達成

※長野県観光地利用者統計、平成 26 年度消費単価見直しを実施

- (2) 滞在時間（来訪者の長時間滞在の増加) (単位：百人)

年度	H25 年度	H29 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	結果
日帰り	27,461	38,137	37,959	23,098	24,921	未達成
宿泊	9,184	12,746	11,974	5,976	6,288	

※長野県観光地利用者統計

- (3) 来訪者満足度（平成 29 年度までに大変満足と答えた割合を 25%以上)

年度	H25 年度	H29 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	結果
割合	24%	33%	27%	31%	32%	達成

※安曇野市観光協会来訪者アンケート調査結果

- (4) 再来訪意向（平成 29 年度までに大変そう思うと答えた割合を 25%以上)

年度	H25 年度	H29 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	結果
割合	35%	46%	51%	56%	57%	達成

※安曇野市観光協会来訪者アンケート調査結果（令和元年度及び令和 2 年度は、設問中来訪回数 4 回以上の人の再来訪意向の値)

- (5) 「安曇野暮らし体験プログラム」参加者数（参加者数の増加)

市主催ツアー及びお試し住宅利用者延べ人数 ※移住定住推進課数値

年度	H25 年度	H29 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	結果
参加者数等	セミナーを 2 回開催	140 人	159 人	105 人	100 人	未達成

なお、本ビジョンで設定した目標値以外で、観光振興に係る目標値は下記のとおりである。

(6) 外国人延べ宿泊者数

(安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI の目標値)

年度	H25 年	H29 年	R 元年	R 2 年	R 3 年度	結果
目標	—	9,000 人	13,000 人	22,200 人	23,200 人	—
宿泊者数	6,010 人	21,210 人	30,515 人	1,050 人	64 人	未達成

※長野県統計外国人延べ宿泊者数

3. 評価実施方法 (案)

評価に当たっては、次の手順により実施。

令和元年度より、安曇野市観光振興ビジョン有識者会議に於いて評価検証を実施。

(1) 目標値の達成状況を確認

- ・長野県観光地利用者統計、観光協会アンケート等の資料により達成状況を確認。

(2) 施策及び具体的取組に係る委員評価を実施

- ・当会議委員による各事業の評価を実施。

(3) 施策及び具体的取組に係る当会議としての事業評価を実施

- ・各委員による事業評価について、当会議としての意見交換を実施。

(4) 有識者会議の評価実施報告の取りまとめ

- ・上記評価等を基本に、当会議として評価を確定。

なお、評価報告書は次期 (第 2 次) 観光振興ビジョン策定及び実施に当たっての参考資料に活用する。

4. 施策評価内容について

(1) 各施策の具体的取組に対する実施評価

観光課が実施した事業の中から、本ビジョンに掲載している 5 つの基本戦略に基づく 15 の主要施策及び土台となる観光基盤整備に関する施策について検証をおこなった。

実施評価は、主要施策に該当する具体的な取組の評価を行った上で総合評価を行い、評価に関する意見を付した。

なお、他部署が主体となり取組む事業の評価については、令和 2 年度分までは事業評価を実施しその内容を主管部署所へ伝えた。但し、令和 3 年度分以降は評価を控えた。

次期観光振興ビジョンでは観光振興を軸とした取組のみを掲載、評価する方針とする。

【評価分類】

- A : 現状のまま事業を実施することが適当
- B : 事業の進め方の改善が必要 (どんな点をどのように改善するか)
- C : 事業の縮小・廃止を検討

◇基本戦略1 安曇野暮らしをまもる～自然との共生～
 主要施策1-1 自然資源の保全

総合評価 A (評価内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
合戦小屋にエコトイレ設置 燕岳への登山道途中に「合戦小屋トイレ」が設置されているが、登山客が快適に利用でき、排せつ物処理が環境の負荷低減になるよう、固液分離方式による処理に切り替えた (内訳：A=5、B=3、C=2、他=0)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラの整備が必要 ・きれいになり良かった ・担当課との連携が必要 ・PR方法検討 ・完了しているので継続ではない ・受益者数は？ ・受益者のことを考えると必要。 ・環境に配慮できる施設として評価できる。
燕岳キャンプ場トイレ整備事業 燕岳稜線上の市所有公衆トイレについて、環境負荷及び臭気の低減、快適化を目的に改築工事に着手。令和3年度は既設トイレの解体を実施、令和4年度に建築工事を完了する予定。 (内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディング導入による整備事業について、資金獲得成果以上に環境保全等への意識向上に有益だったことが評価できる。 ・必要な事業だと思う。 ・山岳登山は安曇野市にとって大きな観光資源であり、登山客に満足してもらう為の一つの方法としてトイレ整備は必要と考える。 ・CFの開催中の情報は多くのSNSで見かけたが、その後の進捗状況があまり伝わってこないため、状況が見えない気がする。また今後は他の山小屋や組合などと密な協議を行い、より結束していただきたい。

【総合的な意見等】

- ・コロナ後の対応について検討が必要

主要施策1-2 自然資源の活用

総合評価 A (評価内訳：A=6、B=1、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
マリーゴールドの植栽と管理活動を支援 安曇野市へ訪れる来訪者を歓迎し人と自然にやさしいまちづくりを推進するため、アルプス花街道実行委員会にマリーゴールドの植栽と管理活動を支援している。(地域づくり課) (内訳：A=6、B=2、C=2、他=0)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野ブランドとして必要 ・信号近くを重点的に(止まった時の見栄え) ・twitterでもほとんど話題になっておらず効果が見えない ・目的が不明・Bエリアが限られている(高速沿いだけでなく市内全域で) ・自然景観が売りで安曇野で人工的なものは避けた方がいいのでは。 ・ツイッター等で話題になっていない。あまり効果ないのでは。 ・ずっと高速を走行して降りて花があると綺麗だと感じる。 ・何のために誰がやっているのかを来訪者にも知って頂ければより良い。
遊歩道維持管理と作業ボランティア ボランティアによる草刈等を実施。令和2年7月、令和3年8月の豪雨により被災した御宝田水のふるさと公園について、令和3年度に園路の復旧を実施。令和4年度に流入土砂の除去を予定。 (内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・御宝田の公園の存在そのものが知られておらず、白鳥の飛来時期には一部閉鎖されるなど、利用についても周知されていない。

<p>英語登山ガイドの養成 海外プロモーション協議会事業として「安曇野市地域通訳案内士」を養成。 (合格者：シティーコース9名、ハイキングコース3名) (内訳：A=4、B=3、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域通訳案内士養成講座修了後の活用についての計画が欠落している。 ・通訳案内士の養成事業は人材発掘の観点からも大いに評価できる。 ・通訳案内士を養成した後の彼らの活用法が見えない。
<p>温泉を利用した観光客誘客 ・「しゃくなげの湯」「湯多里山の神」「八面大王足湯」などの温泉施設を活用した観光誘客を充実。(利用者は、前年度を上回った) ・「しゃくなげの湯」の指定管理期間満了に伴い新たな募集を実施。 (令和4年4月より引き続きユアーズ静岡に指定管理を依頼) (内訳：A=4、B=3、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉旅館組合が解散してからのち、コロナ禍に伴い廃業する施設もあるなど各宿泊施設同志の連携が希薄となり、「穂高温泉郷」としての一体感を醸成する連携がなされていない。 ・地元の井戸端会議スタイルの入浴になって、観光客にはお勧めしにくい。(出入口の縁に座りくつろぐ利用者、温泉気分ではなく銭湯に入ったような思いである。) ・利用者増の具体的数値は。 ・温泉を利用した観光客誘客に関しては、マイクロツーリズムを意識した近隣顧客の誘客の強化なども視野に入れて頂きたい。
<p>登山道等整備事業 登山道維持補修への継続支援を実施。コロナ禍により今まで山小屋の担ってきた公的役割のあり方が問われており、北アルプス南部地区関係者で協議を行っている。 (内訳：A=6、B=1、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入山料は予算不足を受益者に負担させるという登山道整備事業の観点よりも、むしろ環境保全の観点からの徴収を考えるべきではないか。安曇野市が全国的な動向をリードすることが望ましい。 ・入山料の利用実態は。 ・登山者から協力金の徴収はいいと思う。 ・入山者からお金を集める取り組みは、集めるだけではなく、集めたお金の利用結果報告(情報公開)も合わせて大事だと思う。募金者の中から抽選で登山道を整備している場所を見学に行くツアーを有料で実施するなど、より登山者が自分事として意識してもらえるような工夫や取り組みも合わせて実施してはどうか。

【総合的な意見等】

- ・コロナ後の対応について検討が必要。

主要施策 1-3 自然環境への配慮

総合評価 A (評価内訳：A=6、B=1、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
<p>有明山神社内に登山者用駐車場を整備 登山者用駐車場整備では、ピーク時の交通渋滞を緩和するために有明山神社内に登山者用駐車場を整備し、来訪者の利便性・安全性を高めている (内訳：A=3、B=7、C=0、他=0)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・山岳観光振興・インフラ整備が必要・バスやタクシーの利活用を考えたい ・ピーク時の2次交通検討 ・車の許可制・駐車場の有料化を、コロナ禍を契機に考えてはどうか ・駐車場より登山道整備にお金をまわしてほしい ・公共交通との連携が必要 ・有明山入り口も道が整備不足。自然の美しさを見せる企画を <p>※有明山神社駐車場は山岳観光に必要。 ※公共交通との連携が必要。</p>

<p>登山者用駐車場整備・公共交通機関活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しゃくなげの湯東側に登山者用臨時駐車場を整備し供用を開始。 ・7月中旬から10月中旬、中房線宮城ゲート付近で誘導員を配置し駐車場と路線バス等の案内を実施。 <p>(内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに新しく駐車場を整備せず、既存の駐車場を登山者用臨時駐車場にする事は良いと思う。毎朝通勤時に見ますが駐車されている車が少なく感じた。認知されていないのか、それとも利便性が悪いのか?利用者の感想を聞いて改善が必要であれば改善して欲しい。 ・宮城ゲートでの登山者の自家用車の制限は、狭い道に路上駐車する車を無くし、安全を確保するという意味からも非常に重要だと思う。ですが、その先の安曇野市の目指す登山口までの交通網の姿はどういうものなのか、一ノ沢、三股も合わせて全体の将来像を描けない。
<p>自転車利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車活用推進計画を策定。 ・受入体制の充実を目的にサイクリングオアシス協力店舗を登録。 <p>(令和3年度は61店舗が登録) (内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車利用促進について来訪者だけでなく市民に対しても環境保全の観点からの広報を強化する必要がある。 ・自転車活用推進計画の策定について、推奨コースの見直し。所要時間別推奨コースの掲示。 ・自転車活用推進計画との連携が必要 ・自転車を安全に通行できる施策がより必要。現状の自転車道は狭い生活道路と同じではゆったりと家族でサイクリングが楽しめない。 ・自転車利用促進自体は結構だが、EVを中心にした自動車利用や公共交通の活用も視野に入れて頂きたい。 ・サイクリングオアシスは、どのくらい活用されているのか、数値を知りたい。 ・自転車の活用について、協力店舗が61店舗とあり良いと思う。利用者の意見、感想が気になる。良いのか、改善する点があるのか。 ・自転車活用できる企画は今の時代とあっている様に感じる。登山者用の臨時駐車場や路線バスも利用者にとって有難いものだと思う。有明山以外でも多くの山域で求め続けている場所などに実施個所を増やしてもらえればと思う。

【総合的な意見等】

なし

◇基本戦略2 安曇野暮らしをそだてる～農のある暮らしの再生と食の活用～
主要施策2-1 「農」や「里山」のある暮らしの維持・継承

総合評価 A (評価内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
<p>光城山1000人SAKURAプロジェクト 桜の名所である光城山の再生を図るため、市民・地元区及び関係団体協働で毎年桜を定植し、植生調査を実施している。</p> <p>(内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・低山の整備はコロナに合う+滞在に繋がる。他の山もテーマをもって整備を ・自発的発展の結果 ・駐車場確保と整備 ・安曇野ブランドとして必要 ・公共交通の整備が必要 ・観光客を呼ぶ環境ではない(松本市の弘法山の桜のようにしたら) ・光城山1000人SAKURAプロジェクトと東山トレイルコース造成は分離して考えるべき。

<p>教育旅行として農家業体験を通した農家民泊</p> <p>(令和元年度まで評価) ※主管部署へ移管</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課との連携が必要 ・外国人の受け入れを ・受入れを縮小するか、農家を増やす ・法人は活用できないか ・担当課との連携が必要 ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止で終わるのではなく、次年度に向けた取り組み等を記載すべき。 ・農家への民泊は、農家さんの負担を強いらぬで欲しい。 ・農家さんの負担を減らしていく方法を農家さん方当事者と話していきたいです。
<p>里山の再生</p> <p>(令和元年度まで評価) ※主管部署へ移管</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要であるが、もう一步観光を含めた方針を示すべき。 ・マツタケ山の再生、今キャンプブームで山を購入する人が増えているのでそのブームにあやかかって、安曇野市の山の良さをアピールできないか。マツタケ取れるなど。
<p>荒廃農地対策</p> <p>(令和元年度まで評価) ※主管部署へ移管</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水を張った水田は観光素材となりうるが、離農・受農は観光とは関係ない。記載すべき実績ではない。 ・荒廃農地を農地以外での活用を考えられないか。 ・離農者も多いが、受農する人も少ない。また、農地が歪な形状や、点在している為作業効率が悪くなるので受農者も敬遠される。何らかの対策が必要。 ・荒廃農地対策は、観光振興とは直接結びつかない。

【総合的な意見等】

なし

主要施策 2-2 地産地消の推進

総合評価 A (評価内訳：A=4、B=2、C=0、他=1)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
<p>地元生産農家の食材を使った食の魅力発信 (安曇野林檎ナポリタン他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安曇野林檎ナポリタン」参加店舗、令和3年度1軒減。 ・PR用チラシ、ポスター、のぼり旗を作成、観光案内所、観光施設等に設置。 ・青森県弘前市への情報提供及び横展開の実施。 <p>(内訳：A=5、B=2、C=0、他=0)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・更なるブランドメニュー（土産）の開発 ・ストーリー性と販促ルート確保を ・もっとメディアを使った宣伝を ・プロモーションの強化ばかりでなく、参加店舗の意識改革やモチベーションを上げるような施策の検討を期待したい。 ・関係団体の意識改革が必要 ・この資料を見るまで、林檎ナポリタンの存在をしらなかった。 ・林檎ナポリタン、夏野菜カレー、食のスタンプラリーについては、市、商工会がそれぞれ独自に展開している感が強く、これらを総合的にプロデュースするセクションが不足している。

【総合的な意見等】

なし

◇基本戦略3 安曇野暮らしをつたえる～歴史、文化、芸術の継承・活用～
 主要施策3-1 歴史・伝統の継承・活用

総合評価 A (評価内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
<p>廃線敷施設の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JRのハイキングイベントにハロウィンイベントを併せ「APPLE HALLOWEEN in 廃線敷」を実施。(約1,000人参加) ・明科公民館を主会場とした安曇野ジオロゲイニングを開催。(193名参加) (内訳：A=6、B=1、C=0、他=0) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の整備が必要 ・参加者が少なければ継続は検討した方が良い活用者がどれだけいるのか。長いトンネルは飽きる。廃止すべき ・潜在型観光ではマニア向け（PR方法検討）・誘客方法と手段の強化を ・臨時駅の設置をJRに依頼。駅から駅まで通して歩けるようにできないか ・観光施設として廃線敷を活用する場合の案内人（ガイド）が必要。 ・自由見学では良さが伝わらない。 ・安曇野ロゲイニングはぜひ実施してほしい。観光客でなくても地元の人でも参加できる。また、幅広い年齢層、安曇野市のよいスポットをもれなく見る、体験できるので非常に良いと思う。長続きさせる為に毎年、志向を変えるのも手かもしれない。例）パワースポット巡り、うまい果物食べつくし、そば食べつくしなど。 ・廃線敷施設の活用 イベント、PRにより集客。 ・廃線敷については光城山のトレイルツアーと総合的に検討する。
<p>屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安曇野環境フェアへの参加、安曇野屋敷林フォーラムを開催。(58名参加) ・屋敷林の保全活動として穂高地区曾根原家住宅で落ち葉拾いボランティアを実施。 (内訳：A=4、B=3、C=0、他=0) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「屋敷林と歴史まちなみプロジェクト」について、58名の参加者がいるので、これからも続けていく企画でよいと思う。(今回はBとしていました) ・駐車可能なビューポイントを観光マップに入れる(看板を建てる等、観光客に分かりやすい配慮が必要) ・屋敷林は曾根原住宅だけではないと思うので、保全活動を面に広げていく方法を進めていきたい。 ・屋敷林プロジェクトを行政が援助する必要性が見えない。観光振興が扱うテーマではない。
<p>安曇野神竹灯</p> <p>12月3日～5日に開催。(3日間で約25,000人来場) (内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PR方法の検討 ・人の動きが少ない時期のイベントとして重要 ・竹田市との相互ツアーとか如何か ・広報の拡充が必要・予算に見合うか ・神竹灯開催場所の広さが中途半端 ・神竹灯につき、実施方法・デザイン等もっと工夫が必要 ・神竹灯は冬季観光素材として十分成り立つが、観光関連事業者を巻き込んだ更なるブラッシュアップが必要と考える。

【総合的な意見等】

- ・関係者の意識改革が必要

主要施策 3-2 芸術・文化の活用・連携

総合評価 A (評価内訳：A=6、B=1、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
<p>安曇野アートライン事業 安曇野アートライン推進協議会の構成自治体として事業に協力。</p> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安曇野アートラインガイドブック (A5 小冊子×5,000 部) を作成。 (管内観光施設、学校施設等と加盟館 17 館に配布並びに設置) 出張美術館「美術館を学校で楽しもう」を白馬村立白馬中学校にて開催。 (令和 3 年 10 月 18 日・19 日の 2 日間、鑑賞者数：生徒 206 名、協力施設：12 館) (内訳：A=6、B=1、C=0、他=1) 	A	<ul style="list-style-type: none"> アートライン推進協議会として認知度が低く、若年層には周知されていない。 関係者の意識改革が必要 点をつないで地域で見せていくやり方は観光地が小型で分散している安曇野市に合ったやり方だと思う。 認知度が低いと思うので、アートと親和性が高いと思われる Instagram などの SNS 活用なども検討頂きたい、より積極的な情報発信に努めて頂きたい。 アートラインのイベントの開催を間際になってから知った人間からすると、少々もったいないように感じた。折角ならもっと前から知れていたらと思う。また、開催後の結果も気軽に分かるように発信して次に繋げて欲しい。 移住をして来た頃、アートラインの標識を見、胸をワクワクしながら車を走らせた。しかし、どこが、という疑問があった。

【総合的な意見等】
なし

主要施策 3-3 地域産業の活用・連携

総合評価 A (評価内訳：A=6、B=1、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
<p>天蚕や有明紬などの伝統産業</p> <ul style="list-style-type: none"> 天蚕振興事業として募集イベントを開催。 (参加者：機織ワークショップに 36 名、糸掛けアートのワークショップに 70 名) 天産振興会へ後継者の育成と生産量の確保のための支援を実施。 機織り後継者育成事業の 1 期生 (令和 2~3 年度)5 名が修了。 穂高天蚕糸を国内外へ認知させるため、将来の担い手となりうる服飾系専門学校と天蚕振興会との交流事業として、天蚕糸を使用したビジネスプランの企画造成を実施。 (内訳：A=5、B=2、C=0、他=0) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 天蚕振興については、農家 (生産)、繰糸、販売との安定的なサプライチェーンを構築しなければならない。また、天蚕振興会以外のサプライヤーにも着目していくべきである。 天産センターだけでなく市民活動団体の「やまこの学校」も 10 年近く活発な活動を続けており、県外からの協力者や参加者も多い。安曇野の「農ある暮らし」を体現するテーマでもあり、市の積極的な支援が望ましい。 観光課としては天蚕センターの指定管理を任せている天蚕振興会への補助は分かるが、安曇野市として天蚕の普及を考える場合、天蚕振興会以外の団体への補助・協力も考えるべき。 多くの全国地域で天蚕振興が推進されていると思う。この事業は一時的なものではなく永続させるべきと思う。 いいと思う。 機織りなど伝統業の後継者育成事業は、機会を多く作ることで、ある種の補償等があればより参加者が増えると思う。服飾専門学校等の学生方に継続して見てもらえたら嬉しい。

【総合的な意見等】

なし

◇基本戦略4 安曇野暮らしをつなげる～コミュニティとの連携～
 主要施策4-1 コミュニティビジネスの支援

総合評価 なし

主要施策4-2 安曇野暮らしツーリズムの普及・啓発

総合評価 なし 主管部署へ移管

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
総合学習などとの連携 (令和元年度まで評価) ※主管部署へ移管	—	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みは評価するが、観光としてコロナ終息後の来訪者に繋げるのであれば、学校や旅行会社へのPRが必要。令和2年度に来訪を予定していた中学生にビデオレターを送る事は農政の事業では。 ・送る事だけでなく、より身近に感じてもらうにはどうしていくべきか、考えたかったと思います。

【総合的な意見等】

事業内容について、農政部門の評価内容が主であり、事業の進め方に改善が必要と認められる。

主要施策4-3 移住希望者やリピーターとのネットワーク化の推進

総合評価 A (評価内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
友好都市との交流 <ul style="list-style-type: none"> ・FM江戸川に54回出演、安曇野市の魅力等を情報発信。 ・友好都市の広報やHPで安曇野市の紹介を実施。 (内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、互いの行き来は難しいが、交流事業の充実を求める。 ・コロナ禍で難しいが、友好都市へ出向いての観光PRや安曇野特産品の販売・普及などを考えては如何か。 ・「友好都市」システムに経費がかかっているのなら、廃止にしてもよいと考えますが。 ・友好都市で安曇野がどのように紹介されているのか衆知する事が必要。 ・友好都市との交流や宣伝については、海外の姉妹都市も活用して欲しい。
信州安曇野ロゲイニング 10月に開催。(193名参加) (内訳：A=9、B=2、C=0、他=0)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・5月7日に開催された「安曇野穂高神社遷宮祭ロゲイニング」に参加した。大分疲れたが、面白かった。25年も住んでいて新たな発見があって面白かった。家族、グループ、本気で1位を取りに行く人などさまざま参加者がいて正直驚いた。ロゲイニングは是非続けて欲しい企画。 ・密を避ける運営側の対応が出来るのであれば、定員を増やしてもいいのでは。

<p>信州安曇野ハーフマラソン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年・3年はコロナ過のため、オンラインマラソンを開催。(2,733名参加) 令和4年度は開催。(5,759名参加) (内訳：A=7、B=0、C=0、他=0) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソンなど、参加者が多い企画に対して地域の宿泊施設や飲食店がコラボや期間限定的な企画を行えるようになれば、地域全体で一層参加、運営しやすくなるのではないかと考える。
<p>移住、定住希望者への情報発信</p> <p>(令和元年度まで評価) ※主管部署へ移管</p>	—	<ul style="list-style-type: none"> ・移住定住を発信することは容易いが、地方の生活に必要なルール、配慮等を含めた説明も加えて欲しい。別荘感覚ではなく、地域の清掃の参加、家の周りの雪かきなど、協調性がある人

【総合的な意見等】

- ・移住者の実態把握が必要

主要施策4-4 広報連携の推進

総合評価 A (評価内訳：A=6、B=1、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
<p>観光関連団体と連携した観光キャラバンやパンフレット作成</p> <p>日本アルプス観光連盟、北アルプスゆう浪漫委員会、信州まつもと空港地元利用促進協議会と協力し、観光プロモーション事業、首都圏等での誘客活動等に参加。</p> <p>(内訳：A=6、B=1、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市単体の問題では無いが、DMOなどのHQ組織を検討頂きより積極的な活動を期待したい。 【参考】欠席者意見 ・参加したのは良い。何を目標としてどういった成果が出たのか。 ・誘客活動の状況を、地元の間人が詳しく知ることが出来るようなシステムがあれば良いのではと考える。情報を受け取る人間がどの様な媒体で受け取っているのかも含めて発信の継続をお願いしたい。 ・安曇野市に興味がわく、ちょっと気の利いた“キャッチコピー”を作って、パンフレットに載せてみてはどうか。あまりいい例ではないが、豊島園：「プール冷えてます」、もう閉鎖されたヤナバスキー場、「穴場だヤナバ!」、例)①「毎日がキャンプ!」自然がゆたかですをアピール、②「都会から遠いが、山は近い」交通の便はあまり良くないが、山は近い。③「安曇野を通り抜け禁止!!!」or「安曇野を通り抜けするなんてもったいない!!」安曇野市を通り抜けて、北陸、新潟、松本、長野に行く前に安曇野にも寄ってってという希望を込めて、④「昼は暑い、夜は涼しい」昼と夜の寒暖差があり、熱帯夜がなく過ごしやすい事をアピール。など安曇野市役所職員全員から応募してもらい、その中から一番いいキャッチコピーを採用する。もちろん一番いいキャッチコピーを出した人には報奨金を出す、というのはいかがでしょうか。

【総合的な意見等】

なし

◇基本戦略5 安曇野暮らしがうるおう～観光関連産業の強化と観光波及効果の最大化～
主要施策5-1 観光関連産業の強化

総合評価 A (評価内訳：A=4、B=2、C=0、他=1)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
観光関連産業の強化 ・市内事業者向けに観光協会・商工会合同の観光地経営セミナーを開催 ・コロナ禍の観光事業者を対象とした「宿泊施設応援給付金」「観光関連事業者応援給付金」「観光誘致地域応援券」「宿泊施設応援券(第3弾)」「ウイズコロナ旅行企画造成等支援」「安曇野あんしん旅キャンペーン」等の支援を実施。 (内訳：A=4、B=3、C=0、他=0)	A	・コロナ後の対応について検討が必要 ・観光産業の強化については、補助事業も大切だが、DX推進のためのセミナーなど、中長期的な支援を強化して欲しい。
観光協会と連携した情報発信 「安曇野Instagramフォトコンテスト」入賞作品や公式インスタ掲載写真等、約150点を展示する写真展を開催。 (内訳：A=4、B=1、C=0、他=2)	A	・いいと思う。Instagramなど今の若い人がやりやすい、興味がある事をするのがいいと思う。 ・旅行者が発信する方法は今の時代らしくとても良いと思う。Instagramでのフォトコンテストの告知をあまり見かけなかったので、今後様々な媒体で目に入ればいいと思った。応援給付金等宿泊業者がより見つけやすくしてもらえたら利用しやすいのではないかと思う。

【総合的な意見等】

なし

主要施策5-2 農商工観連携の強化

総合評価 A (評価内訳：A=4、B=2、C=0、他=1)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
農商工観連携の強化 市観光協会は、ワサビの収穫体験を組み入れた観光商品を造成し販売した。また、自転車を活用したサイクルロゲイニングを実施し、市内の名所・旧跡や飲食店等を巡るシステム(テーマイベント)を始動させた。 (内訳：A=4、B=2、C=0、他=1)	A	・自転車活用推進計画との連携が必要 ・サイクルロゲイニング用の道路整備をして欲しい。飲食店をめぐるラインができれば市民の利用が見込める。 ・いいと思う。ワサビの収穫体験だけでなく、ワサビを使った料理をして口に入れて“美味しい”と言ってもらえる様にするはどうか。食材は作って、収穫して、調理して、人の口に入っ、て、“美味しい”と言ってもらえるまでが重要と思う。ワサビを使った、レシピを提案するのはどうか。私もワサビは刺身か、蕎麦で使うくらいしか思い浮かばないので。 ・コロナ禍の中で体験型の商品は中々売りにくく、参加者も躊躇うことが多かったかもしれない。今後の状況に期待したい。飲食店をめぐるシステムは、地域一体となって進めていく事でより成果を発揮すると思う。より多くの人の目に留まるようにしていきたい。

		・サイクリングは安曇野市にマッチしたアクティビティだと思う。ロゲイニングは良い取り組みだと思う。
--	--	--

【総合的な意見等】

なし

主要施策 5-3 安定財源の確保

総合評価 A (評価内訳：A=5、B=2、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
観光振興のための財源確保 ・令和3年度から着手したに燕岳テント場トイレ整備や登山道整備を目的としたクラウドファンディングを実施。(全国から539件7,089千円の寄付を募る) ・本取り組みの進捗状況、山岳観光情報をFacebook、twitter「安曇野市山岳サポーターズ」で発信。 (内訳：A=5、B=2、C=0、他=0)	A	・クラウドファンディングを採用したことは評価できるが、入山税の導入をすすめられないか。また、ふるさと納税を見返り品等をさらに工夫して活用できないか。 ・入山料の用途を明確化すべき。 ・公費負担の適否についての検討が必要 ・クラウドファンディングの開催自体はあちこちで見かけたものの、その後の進捗状況などは見かけない気がしている。 ・CFでこんなにも応援、寄付してくれる人がいたとは思わなかった。いいと思う。 ・登山者は、実際に登山道やトイレを使っており、そのためにかかる費用についての理解も進んでいると思う。

【総合的な意見等】

なし

◇基本戦略外 (主要施策外)

観光基盤整備 観光推進体制の構築

総合評価 A (評価内訳：A=3、B=2、C=0、他=2)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
観光協会への運営・支援 ・情報発信や観光案内、ツアー企画・造成等の事業を委託。 ・シェアサイクル事業、安曇野周遊バス、まつもと空港シャトル便の運航、二次交通の整備、宿泊施設予約システム運用等を支援。 (内訳：A=5、B=1、C=0、他=1)	A	・自転車道の整備と観光協会事務所の外観を明るくして、健康志向のライトユーザー層をターゲットに絞り安曇野の良さを一層アピールしてもらいたい。
安曇野市海外プロモーション協議会 ・英語の登山ガイド養成、天蚕糸の振興、自転車を活用したまちづくりの推進、滞在型観光への転換と関係人口の拡大について推進。 ・まちのバイトHPへの情報掲載、天蚕動画作成。 (内訳：A=3、B=3、C=0、他=1)	A	・各種ガイド養成については、観光客を意識したホスピタリティをカリキュラムに入れるべきである。また、講座終了(卒業)後の活用方法を検討するべきである。

<p>山岳観光推進実行委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 山岳観光推進実行委員会は、コロナ過のためメディア・エージェント懇談会を中止としたが、ライトユーザー層や若者層などをターゲットに、YouTube を活用したプロモーションや里山やまちなか観光を含めたPRを実施。 <p>(内訳：A=5、B=1、C=0、他=1)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> YouTube の活用はいいと思う(まだ見た事はないが)。
--	---	---

【総合的な意見等】

- 若者層に限定せず、コロナ禍において登山や観光を自粛する旅行者の目に触れる良い機会だったと感じる。今後、継続して発信を続けたプロモーションを見た旅行者がより旅行をしやすいよう行っていけたら次につながると思う。コロナの状況下で柔軟に対応したのではないかな。

観光基盤の充実・強化

総合評価 A (評価内訳：A=5、B=1、C=0、他=1)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
<p>観光施設の公衆トイレなどの整備・維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 穂高駅前、穂高支所前公衆トイレの洋式化改修を実施。 かじかの里公園キャンプエリア、プラザ安曇野に無料 Wi-Fi を設置。 <p>(内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> かじかの里公園の改善を考える。(池の水とか周りが淀んで淡水魚類が生活する環境づくり)
<p>周遊バスの運行 <観光協会実施事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月24日から11月3日までのうち70日間運行。 令和4年度は季節運行(4月29日から9月25日のうち52日間)を計画。 らくらくタクシーを運行。(実績：令和3年度78人、令和2年度13人) <p>(内訳：A=6、B=1、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 2次交通については、もう少し工夫が必要なのでは。登山口への交通など、時期や時間によって大きな需要がある場所に運行してもらえないか。
<p>シェアサイクルシステム <観光協会実施事業></p> <p>利用実績値 令和3年度利用台数： 1,881台(利用総額：1,008,413円)</p> <p>(内訳：A=7、B=0、C=0、他=0)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> シェアサイクルは2018年8月の事業開始以来、緩やかな伸び率ではあるが着実に右肩上がり利用率を伸ばしている。本年度も現時点で、既に昨年度の売上を上回っていることから、今後も更なる利用率の向上を目指していく。 シェアサイクルの台数を増やす時期にきているのでは。 自転車活用推進計画との連携が必要 交通の利便性が改善されていていいと思う。特にシェアサイクルシステムの利用台数と利用金額が毎年上がっている。利用者からの感想はどうなのか。何か隠れた不便な事はないのか。例)坂道が多く疲れる、電動アシスト付きにしたいなど。

【総合的な意見等】

- 交通手段を観光以外の公共交通との共有化なども視野に入れて検討頂きたい。例えば当店でも近隣住民の方が、柏矢町から30～40分かけて徒歩やタクシーで片道2000円近く支払っているお客さまがいるので、そういう方がもっと利用しやすい交通手段があると良い。
- 公衆トイレの洋式化は今後も続けて頂きたい。シェアサイクルに加えて、バスや乗合タクシー等より一層の公共交通機関の充足を目指していきたい。土日のみの運行でも。

イベントを通じた来訪戦略

総合評価 B (評価内訳：A=5、B=2、C=0、他=0)

施策該当事業の内容	評価	代表的な意見と各委員評価
信州安曇野田んぼアート ・令和3年6月19日～9月26日まで開催。 ・令和4年度は開催しない。 (内訳：A=2、B=2、C=3、他=0)	B	<ul style="list-style-type: none"> 信州安曇野田んぼアート実行委員会は、令和4年8月17日をもって解散した。 田んぼアートの中止は残念。デザイン選定から実施、資金調達等の工夫によって復活できないか。 田んぼアートは、1箇所だけではなく、小規模で良いので数カ所に広げて、周遊に繋げて良いのでは。 田んぼアート今年実施しないのはなぜか。理由が知りたい。
安曇野花火 ・令和3年度は悪疫退散安曇野花火として市内3カ所に分散し11月に無観客で実施。 ・令和4年度は8月14日に入場者を2,000人に限定し実施。 (内訳：A=6、B=1、C=0、他=0)	A	<ul style="list-style-type: none"> 花火は、実施継続していただきたいです。 花火の入場者を限定したことにより、機会を失った方が多くいることと思う。今回の機会を失った方が次を期待できるような方法があれば、今回残念な思いをした方も期待を持てるのではないか。 やはり、夏の花火はいい。今後も続けて欲しい。(もちろん、渋滞、ゴミ、トレイなどの問題が起こらない様に準備が必要だが)

【総合的な意見等】

なし

(2) 主要施策の現状における達成状況と実施評価総括

主要15施策及び観光基盤整備における達成状況は、主管部署へ移管した施策を除く各施策該当事業30事業中、「現状のまま事業を実施することが適当」とする事業が29事業であった。

主要施策及び観光基盤整備における総合評価は、16施策中15施策が「現状のまま事業を実施することが適当」となっているが、事業を進める上で新型コロナウイルス感染症の様な事態が今後の事業運営に及ぼす影響等を分析し、観光客、市民、事業者等に対してのプロモーションや周知などの改善、庁内や事業者間の連携推進、DX推進のためのセミナー開催といった中長期的支援など、事業の進め方への更なる充実や改善を求める意見が寄せられた。

(3) まとめ

主要施策の評価を総括すると、概ねの主要施策について「現状のまま事業を実施することが適当」という良好な評価を得たが、施策の達成度を図る指標の設定や、計画を遂行する推進体制の構築などについては、次期観光振興ビジョンの策定に当たって留意が必要である。具体的には、令和4年度までの施策評価と会議で出された意見から、次期観光振興ビジョンに向けた参考意見として下記にまとめ、次期観光振興ビジョンの策定に活用する。

ア 観光振興ビジョンの戦略的かつ柔軟な遂行

10年間の長期計画を策定し遂行する中で、急な災害や社会情勢の変化にも対応できるよう、定期的に計画の点検評価を行い、必要に応じて修正をする等の柔軟な対策が不可欠である。

また、実現性が高く即効性がある事業から戦略的に実施し、効果が出ない事業の取捨選択を検討することも選択肢の一つとして含んでおくことが必要である。

イ 観光推進組織体制の在り方

現行振興ビジョンでは、「安曇野暮らしツーリズム」を進めていく観光推進体制として、安曇野暮らしに関係する市民団体や他産業の団体等との連携強化を目的に「安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）」を整備し、情報の一元化と情報発信、観光プロモーションに取り組む予定であったが実現には至らなかった。次期観光振興ビジョンでは、域内の経済活動の活性化を目指し具体的に施策を展開できるよう、庁内、観光関連事業者や団体等が一体となり官民連携による推進組織を構築する必要がある。

ウ 地域の魅力への気付きや、事業者の施策立案に向けた機会の創出

「安曇野暮らしツーリズム」の実現には、市民や事業者が地域の魅力に気付き、積極的に外部へ発信することや、事業者による具体的な旅行商品等の造成が求められる。新型コロナウイルス感染症のような突発的な事故の場合、「安全」・「安心」の発信や周知等を引き続き行う必要がある。また、新型コロナ禍により、個人旅行や平日の旅行需要の分散化など旅行形態が変化している中、観光客の多様なニーズに応じることのできる受入体制の整備が求められる他、外国人旅行者数の回復や、旅の高付加価値化といった旅行形態の変化を捉えた観光戦略が必要である。

エ デジタル活用の重要性の高まり

インターネットでの予約・情報検索が主流となる中で、利便性が高いシステムの導入、魅力を伝える動画コンテンツの整備やSNSの活用等の重要性が一層高まっている。

オ 次期観光振興ビジョンの策定に当たって

観光振興ビジョンを策定した平成25年からこの10年間にインバウンド観光の盛り上がりやオーバーツーリズム等による観光公害の発生、新型コロナウイルスの世界的流行、国連によるSDGs（持続可能な開発目標）の普及等、「観光」を取り巻く状況は大きく、そして短期間に変化していて、これらの変化に伴い、従来の観光振興政策の在り方は、大きな方向転換が求められている。このような中、今後は「持続可能な観光地」として選ばれ続ける観光地の基盤構築が求められる。また、安曇野が有する観光資源を生かした観光戦略により、滞在型観光への転換を図る必要がある。このような中、新たな旅のスタイルに対応した滞在型ツーリズムを推進し、体験型観光の充実を図ることで、滞在時間の拡大や観光消費額の増加につながる取組が求められる。

資料

安曇野市観光振興ビジョン有識者会議開催

開催回	日付	内容
第1回	令和2年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱書交付・会長及び副会長選出 ・「安曇野市観光振興ビジョン」及び有識者会議の概要 ・今後のスケジュール確認
第2回	令和2年5月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度までの各取組評価
第3回	令和2年6月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度までの評価結果確認 ・令和2年度からの評価項目設定
第4回	令和2年8月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン基本戦略に基づく、令和2年度以降の具体的な施策提案
第5回	令和2年10月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度までの取組評価報告書（中間報告）素案確認 ・ビジョン基本戦略に基づく令和2年度以降の具体的な取組提案 ・今後のスケジュール確認
第6回	令和3年5月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・目標指標の確認と目標値の達成状況見込 ・令和2年度の実績報告（評価項目説明）
第7回	令和3年7月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業評価検証 ・令和3年度事業計画評価検証
第8回 (書面確認)	令和4年3月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度及び令和3年度事業評価実施報告書素案確認
第9回	令和4年8月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・有識者会議の概要及びスケジュール確認 ・事業評価説明 ・令和3年度事業評価検証 ・令和4年度事業計画評価検証
第10回	令和4年9月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度及び令和4年度事業評価集計結果の確認

安曇野市観光振興ビジョン有識者会議委員（敬称略・順不同）

	団 体 名（役職名等）	氏 名	根拠規定
1	国営アルプスあづみの公園（顧問）	宮田 弘康	2号
2	（一社）安曇野市観光協会（専務理事兼事務局長）	白澤 勇一	3号
3	安曇野市商工会（地域振興課長）	中澤 美穂	5号関係団体
4	安曇野.com（農業後継者）	降籬 治喜	5号関係団体
5	安曇野市山岳観光推進実行委員会 （有蝶が岳ヒュッテ代表取締役）	中村 梢	5号関係団体
6	NPO 法人安曇野ふるさとづくり応援団（副代表理事）	川崎 克之	4号
7	NPO 法人アルプス善意通訳協会（理事）	松元 久	4号
8	北アルプスワークサイト （リゾートテレワーク等事業者）	鶴飼 博将	6号
9	W-Asobi （事業者：登山・自転車ガイド業・信州登山案内人）	加集 安行	6号
10	公募委員	米澤 章雄	1号
11	公募委員	丸山 慎哉	1号
12	公募委員	坂倉 とも子	1号